



Multi-VRF CE の設定

- [Multi-VRF CE に関する情報 \(1 ページ\)](#)
- [Multi-VRF CE の設定方法 \(5 ページ\)](#)
- [Multi-VRF CE の設定方法 \(10 ページ\)](#)
- [VRF 認識サービスの設定 \(16 ページ\)](#)
- [Multi-VRF CE の設定例 \(25 ページ\)](#)
- [マルチ VRF CE の機能情報 \(29 ページ\)](#)

Multi-VRF CE に関する情報

バーチャルプライベート ネットワーク (VPN) は、ISP バックボーン ネットワーク上でお客様にセキュアな帯域幅共有を提供します。VPN は、共通ルーティング テーブルを共有するサイトの集合です。カスタマーサイトは、1つまたは複数のインターフェイスでサービスプロバイダー ネットワークに接続され、サービス プロバイダーは、VRF テーブルと呼ばれる VPN ルーティング テーブルと各インターフェイスを関連付けます。

スイッチが稼働している場合、スイッチはカスタマーエッジ (CE) デバイスの Multiple VPN Routing/Forwarding (Multi-VRF) インスタンスをサポートします (Multi-VRF CE)。サービスプロバイダーは、Multi-VRF CE により、重複する IP アドレスで複数の VPN をサポートできます。



(注) スイッチでは、VPN のサポートのためにマルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) が使用されません。

Multi-VRF CE の概要

Multi-VRF CE は、サービスプロバイダーが複数の VPN をサポートし、VPN 間で IP アドレスを重複して使用できるようにする機能です。Multi-VRF CE は入力インターフェイスを使用して、さまざまな VPN のルートを区別し、1つまたは複数のレイヤ3インターフェイスと各 VRF を関連付けて仮想パケット転送テーブルを形成します。VRF 内のインターフェイスは、イーサ

ネットポートのように物理的なもの、または VLAN SVI のように論理的なものにもできますが、複数の VRF に属することはできません。



(注) Multi-VRF CE インターフェイスは、レイヤ 3 インターフェイスである必要があります。

Multi-VRF CE には、次のデバイスが含まれます。

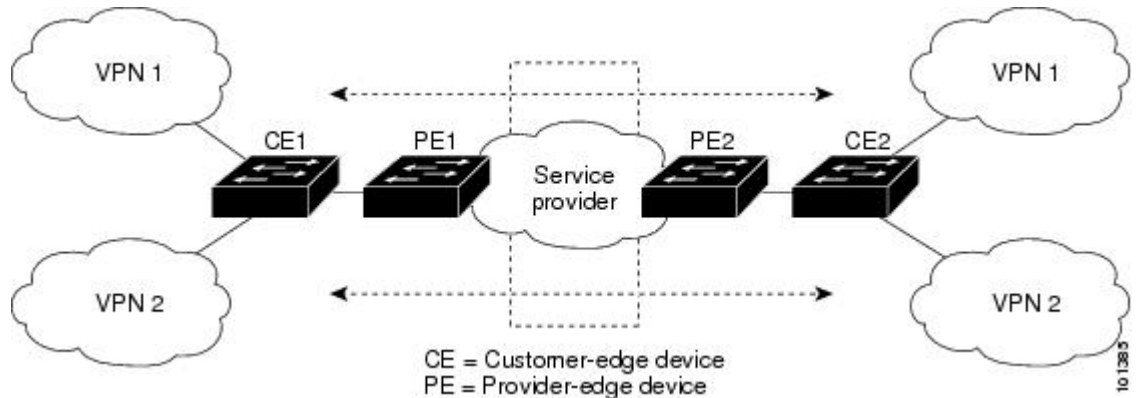
- お客様は、CE デバイスにより、1 つまたは複数のプロバイダー エッジ (PE) ルータへのデータリンクを介してサービスプロバイダーネットワークにアクセスできます。CE デバイスは、サイトのローカルルートをルータにアドバタイズし、リモート VPN ルートをそこから学習します。スイッチを CE に設定することができます。
- PE ルータは、スタティックルーティング、または BGP、RIPv2、OSPF、EIGRP などのルーティングプロトコルを使用して、CE デバイスとルーティング情報を交換します。PE は、直接接続している VPN に対する VPN ルートのみを保守する必要があります。そのため、すべてのサービスプロバイダー VPN ルートを PE が保守する必要はありません。各 PE ルータは、直接接続しているサイトごとに VRF を維持します。すべてのサイトが同じ VPN に存在する場合は、PE ルータの複数のインターフェイスを 1 つの VRF に関連付けることができます。各 VPN は、指定された VRF にマッピングされます。PE ルータは、ローカル VPN ルートを CE から学習したあとで、IBGP を使用して別の PE ルータと VPN ルーティング情報を交換します。
- CE デバイスに接続していないサービスプロバイダーネットワークのルータは、プロバイダー ルータやコア ルータになります。

Multi-VRF CE では、複数のお客様が 1 つの CE を共有でき、CE と PE の間で 1 つの物理リンクだけが使用されます。共有 CE は、お客様ごとに別々の VRF テーブルを維持し、独自のルーティングテーブルに基づいて、お客様ごとにパケットをスイッチングまたはルーティングします。Multi-VRF CE は、制限付きの PE 機能を CE デバイスに拡張して、別々の VRF テーブルを維持し、VPN のプライバシーおよびセキュリティをブランチ オフィスに拡張します。

ネットワーク トポロジ

次の図に、スイッチを複数の仮想 CE として使用した構成例を示します。このシナリオは、中小企業など、VPN サービスの帯域幅要件の低いお客様に適しています。この場合、スイッチにはマルチ VRF CE のサポートが必要です。Multi-VRF CE はレイヤ 3 機能なので、VRF のそれぞれのインターフェイスはレイヤ 3 インターフェイスである必要があります。

図 1: 複数の仮想 CE として機能するスイッチ



CE スイッチは、レイヤ3 インターフェイスを VRF に追加するコマンドを受信すると、Multi-VRF CE 関連のデータ構造で VLAN ID と Policy Label (PL) の間に適切なマッピングを設定し、VLAN ID と PL を VLAN データベースに追加します。

Multi-VRF CE を設定すると、レイヤ3 フォワーディング テーブルは、次の 2 つのセクションに概念的に分割されます。

- Multi-VRF CE ルーティング セクションには、さまざまな VPN からのルートが含まれます。
- グローバル ルーティング セクションには、インターネットなど、VPN 以外のネットワークへのルートが含まれます。

さまざまな VRF の VLAN ID はさまざまな PL にマッピングされ、処理中に VRF を区別するために使用されます。レイヤ3 設定機能では、学習した新しい VPN ルートごとに、入力ポートの VLAN ID を使用して PL を取得し、Multi-VRF CE ルーティング セクションに PL および新しいルートを挿入します。ルーテッド ポートからパケットを受信した場合は、ポート内部 VLAN ID 番号が使用されます。SVI からパケットを受信した場合は、VLAN 番号が使用されません。

パケット転送処理

Multi-VRF CE 対応ネットワークのパケット転送処理は次のとおりです。

- スイッチは、VPN からパケットを受信すると、入力 PL 番号に基づいてルーティング テーブルを検索します。ルートが見つかり、スイッチはパケットを PE に転送します。
- 入力 PE は、CE からパケットを受信すると、VRF 検索を実行します。ルートが見つかり、ルータは対応する MPLS ラベルをパケットに追加し、MPLS ネットワークに送信します。
- 出力 PE は、ネットワークからパケットを受信すると、ラベルを除去してそのラベルを使用し、正しい VPN ルーティング テーブルを識別します。次に、通常のルート検索を実行します。ルートが見つかり、パケットを正しい隣接デバイスに転送します。

- CE は、出力 PE からパケットを受信すると、入力 PL を使用して正しい VPN ルーティング テーブルを検索します。ルートが見つかり、パケットを VPN 内で転送します。

ネットワーク コンポーネント

VRF を設定するには、VRF テーブルを作成し、VRF に関連するレイヤ 3 インターフェイスを指定します。次に、VPN、および CE と PE 間でルーティング プロトコルを設定します。プロバイダーのバックボーンで VPN ルーティング情報を配信する場合は、BGP が優先ルーティング プロトコルです。Multi-VRF CE ネットワークには、次の 3 つの主要コンポーネントがあります。

- VPN ルート ターゲット コミュニティ : VPN コミュニティのその他すべてのメンバーのリスト。VPN コミュニティ メンバーごとに VPN ルート ターゲットを設定する必要があります。
- VPN コミュニティ PE ルータのマルチプロトコル BGP ピアリング : VPN コミュニティのすべてのメンバーに VRF 到達可能性情報を伝播します。VPN コミュニティのすべての PE ルータで BGP ピアリングを設定する必要があります。
- VPN 転送 : VPN サービス プロバイダー ネットワークを介し、全 VPN コミュニティ メンバー間で、全トラフィックを伝送します。

VRF 認識サービス

IP サービスはグローバル インターフェイスに設定可能で、グローバル ルーティング インスタンスで稼働します。IP サービスは複数のルーティング インスタンス上で稼働するように拡張されます。これが、VRF 認識です。システム内の任意の設定済み VRF であればいずれも、VRF 認識サービス用に指定できます。

VRF 認識サービスは、プラットフォームに依存しないモジュールに実装されます。VRF とは、Cisco IOS 内の複数のルーティング インスタンスを意味します。各プラットフォームには、サポートする VRF 数に関して独自の制限があります。

VRF 認識サービスには、次の特性があります。

- ユーザは、ユーザ指定の VRF 内のホストに ping を実行できます。
- ARP エントリは、個別の VRF で学習されます。ユーザは、特定の VRF の ARP エントリを表示できます。

Multi-VRF CE の設定方法

Multi-VRF CE のデフォルト設定

表 1: VRF のデフォルト設定

機能	デフォルト設定
VRF	ディセーブルVRF は定義されていません。
マップ	インポートマップ、エクスポートマップ、ルートマップは定義されていません。
VRF 最大ルート数	ファストイーサネットスイッチ：8000 ギガビットイーサネットスイッチ：12000
転送テーブル	インターフェイスのデフォルトは、グローバルルーティングテーブルです。

Multi-VRF CE の設定時の注意事項



(注)

Multi-VRF CE を使用するには、スイッチで をイネーブルにする必要があります。

- Multi-VRF CE を含むスイッチは複数のお客様によって共有され、各お客様には独自のルーティングテーブルがあります。
- お客様は別々の VRF テーブルを使用するので、同じ IP アドレスを再利用できます。別々の VPN では IP アドレスの重複が許可されます。
- Multi-VRF CE では、複数のお客様が、PE と CE の間で同じ物理リンクを共有できます。複数の VLAN を持つトランク ポートでは、パケットがお客様間で分離されます。それぞれのお客様には独自の VLAN があります。
- Multi-VRF CE ではサポートされない MPLS-VRF 機能があります。ラベル交換、LDP 隣接関係、ラベル付きパケットはサポートされません。
- PE ルータの場合、Multi-VRF CE の使用と複数の CE の使用に違いはありません。図 41-6 では、複数の仮想レイヤ 3 インターフェイスが Multi-VRF CE デバイスに接続されています。
- スイッチでは、物理ポートか VLAN SVI、またはその両方の組み合わせを使用して、VRF を設定できます。SVI は、アクセス ポートまたはトランク ポートで接続できます。
- お客様は、別のお客様と重複しないかぎり、複数の VLAN を使用できます。お客様の VLAN は、スイッチに保存されている適切なルーティングテーブルの識別に使用される特定のルーティングテーブル ID にマッピングされます。
- スイッチは、1 つのグローバルネットワークおよび最大 256 の VRF をサポートします。
- Cisco Catalyst 9200 シリーズ スイッチの各モデルでサポートされる VRF の数は次のとおりです。

スイッチ モデル	サポートされる VRF の数
C9200L-24T-4G	1
C9200L-24P-4G	
C9200L-48T-4G	
C9200L-48P-4G	
C9200L-24T-4X	
C9200L-24P-4X	
C9200L-48T-4X	
C9200L-48P-4X	
C9200-24T	
C9200-24P	
C9200-48T	

スイッチ モデル	サポートされる VRF の数
C9200-48P	
C9200-24PB	32
C9200-48PB	

- CE と PE の間では、ほとんどのルーティングプロトコル（BGP、OSPF、RIP、およびスタティックルーティング）を使用できます。ただし、次の理由から External BGP（EBGP）を使用することを推奨します。
 - BGP では、複数の CE とのやり取りに複数のアルゴリズムを必要としません。
 - BGP は、さまざまな管理者によって稼働するシステム間でルーティング情報を渡すように設計されています。
 - BGP では、ルートの属性を CE に簡単に渡すことができます。
- Multi-VRF CE は、パケットのスイッチング レートに影響しません。
- VPN マルチキャストはサポートされません。
- プライベート VLAN で VRF をイネーブルにできます（逆も同様です）。
- インターフェイスでポリシーベースルーティング（PBR）がイネーブルになっている場合は、VRF をイネーブルにできません（逆も同様です）。
- インターフェイスで Web Cache Communication Protocol（WCCP）がイネーブルになっている場合は、VRF をイネーブルにできません（逆も同様です）。

VRF の設定

次の操作を行ってください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	ip routing 例 : Device(config)#ip routing	IP ルーティングをイネーブルにします。
ステップ 4	ip vrf vrf-name 例 : Device(config)#ip vrf vpn1	VRF 名を指定し、VRF コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	rd route-distinguisher 例 : Device(config-vrf)#rd 100:2	ルート識別子を指定して VRF テーブルを作成します。AS 番号と任意の番号 (xxx:y) または IP アドレスと任意の番号 (A.B.C.D:y) を入力します。
ステップ 6	route-target {export import both} route-target-ext-community 例 : Device(config-vrf)#route-target both 100:2	指定された VRF のインポート、エクスポート、またはインポートおよびエクスポート ルート ターゲット コミュニティのリストを作成します。AS システム番号と任意の番号 (xxx:y) または IP アドレスと任意の番号 (A.B.C.D:y) を入力します。 <i>route-target-ext-community</i> は、ステップ 4 で入力した <i>route-distinguisher</i> と同一にする必要があります。
ステップ 7	import map route-map 例 : Device(config-vrf)#import map importmap1	(任意) VRF にルートマップを対応付けます。
ステップ 8	interface interface-id 例 : Device(config-vrf)#interface gigabitethernet 1/0/1	VRF に関連付けるレイヤ 3 インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。インターフェイスにはルーテッドポートまたは SVI を設定できません。
ステップ 9	ip vrf forwarding vrf-name 例 : Device(config-if)#ip vrf forwarding vpn1	VRF をレイヤ 3 インターフェイスに対応付けます。 (注) ip vrf forwarding が管理インターフェイスで有効になっている場合、アクセスポイントは加入しません。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 10	end 例： Device(config)#end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 11	show ip vrf [brief detail interfaces] [vrf-name] 例： Device#show ip vrf interfaces vpn1	設定を確認します。設定した VRF に関する情報を表示します。
ステップ 12	copy running-config startup-config 例： Device#copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

Multi-VRF CE の設定方法

マルチキャスト VRF の設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device>enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device#configure terminal	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	ip routing 例： Device(config)#ip routing	IP ルーティングモードをイネーブルにします

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	ip vrf vrf-name 例 : Device(config)#ip vrf vpn1	VRF 名を指定し、VRF コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	rd route-distinguisher 例 : Device(config-vrf)#rd 100:2	ルート識別子を指定して VRF テーブルを作成します。AS 番号と任意の番号 (xxx:y) または IP アドレスと任意の番号 (A.B.C.D:y) を入力します。
ステップ 6	route-target {export import both} route-target-ext-community 例 : Device(config-vrf)#route-target import 100:2	指定された VRF のインポート、エクスポート、またはインポートおよびエクスポート ルートターゲット コミュニティのリストを作成します。AS システム番号と任意の番号 (xxx:y) または IP アドレスと任意の番号 (A.B.C.D:y) を入力します。route-target-ext-community は、ステップ 4 で入力した route-distinguisher と同一にする必要があります。
ステップ 7	import map route-map 例 : Device(config-vrf)#import map importmap1	(任意) VRF にルートマップを対応付けます。
ステップ 8	ip multicast-routing vrf vrf-name distributed 例 : Device(config-vrf)#ip multicast-routing vrf vpn1 distributed	(任意) VRF テーブルでグローバルマルチキャストルーティングをイネーブルにします。
ステップ 9	interface interface-id 例 : Device(config-vrf)#interface gigabitethernet 1/0/2	VRF に関連付けるレイヤ 3 インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。インターフェイスはルーテッドポートまたは SVI に設定できます。
ステップ 10	ip vrf forwarding vrf-name 例 : Device(config-if)#ip vrf forwarding vpn1	VRF をレイヤ 3 インターフェイスに対応付けます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 11	ip address <i>ip-address</i> <i>mask</i> 例 : Device(config-if)#ip address 10.1.5.1 255.255.255.0	レイヤ3 インターフェイスの IP アドレスを設定します。
ステップ 12	ip pim sparse-dense mode 例 : Device(config-if)#ip pim sparse-dense mode	VRF に関連付けられているレイヤ3 インターフェイス上で、PIM をイネーブルにします。
ステップ 13	end 例 : Device(config)#end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 14	show ip vrf [brief detail interfaces] [<i>vrf-name</i>] 例 : Device#show ip vrf detail vpn1	設定を確認します。設定した VRF に関する情報を表示します。
ステップ 15	copy running-config startup-config 例 : Device#copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

VPN ルーティング セッションの設定

VPN内のルーティングは、サポートされている任意のルーティングプロトコル（RIP、OSPF、EIGRP、BGP）、またはスタティックルーティングで設定できます。ここで説明する設定は OSPF のものですが、その他のプロトコルでも手順は同じです。



- (注) VRF インスタンス内で EIGRP ルーティングプロセスが実行されるように設定するには、**autonomous-system *autonomous-system-number*** アドレス ファミリ コンフィギュレーション モード コマンドを入力して、自律システム番号を設定する必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device#configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	router ospf process-id vrf vrf-name 例： Device(config)#router ospf 1 vrf vpn1	OSPF ルーティングをイネーブルにして VPN 転送テーブルを指定し、ルータ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	log-adjacency-changes 例： Device (config-router) #log-adjacency-changes	(任意) 隣接ステートの変更を記録します。これは、デフォルトの状態です。
ステップ 5	redistribute bgp autonomous-system-number subnets 例： Device (config-router) #redistribute bgp 10 subnets	BGP ネットワークから OSPF ネットワークに情報を再配布するようにスイッチを設定します。
ステップ 6	network network-number area area-id 例： Device (config-router) #network 1 area 2	OSPF が動作するネットワークアドレスとマスク、およびそのネットワーク アドレスのエリア ID を定義します。
ステップ 7	end 例： Device (config-router) #end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 8	show ip ospf process-id 例： Device#show ip ospf 1	OSPF ネットワークの設定を確認します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	copy running-config startup-config 例 : Device#copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

BGP PE/CE ルーティング セッションの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : Device#configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	router bgp autonomous-system-number 例 : Device(config)#router bgp 2	その他の BGP ルータに AS 番号を渡す BGP ルーティングプロセスを設定し、ルータ コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	network network-number mask network-mask 例 : Device(config-router)#network 5 mask 255.255.255.0	BGP を使用してアナウンスするネットワークおよびマスクを指定します。
ステップ 4	redistribute ospf process-id match internal 例 : Device(config-router)#redistribute ospf 1 match internal	OSPF 内部ルートを再配布するようにスイッチを設定します。
ステップ 5	network network-number area area-id 例 : Device(config-router)#network 5 area 2	OSPF が動作するネットワークアドレスとマスク、およびそのネットワークアドレスのエリア ID を定義します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	address-family ipv4 vrf vrf-name 例 : Device (config-router) #address-family ipv4 vrf vpn1	PE/CE ルーティングセッションの BGP パラメータを定義し、VRF アドレスファミリ モードを開始します。
ステップ 7	neighbor address remote-as as-number 例 : Device (config-router) #neighbor 10.1.1.2 remote-as 2	PE と CE ルータの間の BGP セッションを定義します。
ステップ 8	neighbor address activate 例 : Device (config-router) #neighbor 10.2.1.1 activate	IPv4 アドレスファミリのアドバタイズメントをアクティブ化します。
ステップ 9	end 例 : Device (config-router) #end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 10	show ip bgp [ipv4] [neighbors] 例 : Device#show ip bgp ipv4 neighbors	BGP 設定を確認します。
ステップ 11	copy running-config startup-config 例 : Device#copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

Multi-VRF CE のモニタリング

表 2: Multi-VRF CE 情報を表示するコマンド

コマンド	目的
show ip protocols vrf vrf-name	VRF に対応付けられたルーティングプロトコル情報を表示します。
show ip route vrf vrf-name [connected] [protocol [as-number]] [list] [mobile] [odr] [profile] [static] [summary] [supernets-only]	VRF に対応付けられた IP ルーティングテーブル情報を表示します。

コマンド	目的
<code>show ip vrf [brief detail interfaces] [vrf-name]</code>	定義された VRF インスタンスに関する情報を表示します。

VRF 認識サービスの設定

次のサービスは、VRF 認識です。

- ARP
- ping
- 簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)
- ユニキャスト RPF (uRPF)
- Syslog
- traceroute
- FTP および TFTP

ARP 用 VRF 認識サービスの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	show ip arp vrf vrf-name 例 : Device#show ip arp vrf vpn1	指定された VRF 内の ARP テーブルを表示します。

ping 用 VRF 認識サービスの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ping vrf vrf-name ip-host 例 : Device#ping vrf vpn1 ip-host	指定された VRF 内の ARP テーブルを表示します。

SNMP 用 VRF 認識サービスの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	snmp-server trap authentication vrf 例： Device(config)#snmp-server trap authentication vrf	VRF で、パケットに対して SNMP トラップをイネーブルにします。
ステップ 4	snmp-server engineID remote host vrf vpn-instance engine-id string 例： Device(config)#snmp-server engineID remote 172.16.20.3 vrf vpn1 80000009030000B064EFE100	スイッチ上で、リモート SNMP エンジンの名前を設定します。
ステップ 5	snmp-server host host vrf vpn-instance traps community 例： Device(config)#snmp-server host 172.16.20.3 vrf vpn1 traps comaccess	SNMP トラップ動作の受信側、および SNMP トラップの送信に使用される VRF テーブルを指定します。
ステップ 6	snmp-server host host vrf vpn-instance informs community 例： Device(config)#snmp-server host 172.16.20.3 vrf vpn1 informs comaccess	SNMP 通知動作の受信先を指定し、SNMP 通知の送信に使用される VRF テーブルを指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	snmp-server user user group remote host vrf vpn-instance security model 例 : Device(config)#snmp-server user abcd remote 172.16.20.3 vrf vpn1 priv v2c 3des secure3des	SNMP アクセス用に、VRF 上にあるリモートホストの SNMP グループにユーザを追加します。
ステップ 8	end 例 : Device(config-if)#end	特権 EXEC モードに戻ります。

NTP 用 VRF 認識サービスの設定

NTP 用の VRF 認識サービスの設定には、NTP サーバと、NTP サーバに接続された NTP クライアント インターフェイスの設定が含まれます。

始める前に

NTP クライアントとサーバの間の接続を確認します。NTP サーバに接続されているクライアント インターフェイスで有効な IP アドレスおよびサブネットを設定します。

NTP クライアントでの NTP 用 VRF 認識サービスの設定

NTP サーバに接続されているクライアント インターフェイスで次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例 : Device>enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例 : Device#configure terminal	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	interface interface-id 例 :	VRF に関連付けるレイヤ 3 インターフェイスを指定し、インターフェイス

	コマンドまたはアクション	目的
	Device (config) # interface gigabitethernet 1/0/1	コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	vrf forwarding vrf-name 例 : Device (config-if) # vrf forwarding A	VRF をレイヤ 3 インターフェイスに対応付けます。
ステップ 5	ip address ip-address subnet-mask 例 : Device (config-if) # ip address 1.1.1.1 255.255.255.0	インターフェイスの IP アドレスを入力します。
ステップ 6	no shutdown 例 : Device (config-if) # no shutdown	インターフェイスをイネーブルにします。
ステップ 7	exit 例 : Device (config-if) exit	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 8	ntp authentication-key number md5 md5-number 例 : Device (config) # ntp authentication-key 1 md5 cisco123	認証キーを定義します。デバイスが時刻源と同期するのは、時刻源がこれらの認証キーのいずれかを持ち、 ntp trusted-key number コマンドによってキー番号が指定されている場合だけです。 (注) 認証キー番号と MD5 パスワードは、クライアントとサーバの両方で同じである必要があります。
ステップ 9	ntp authenticate 例 : Device (config) # ntp authenticate	NTP 認証機能をイネーブルにします。NTP 認証はデフォルトでディセーブルになっています。
ステップ 10	ntp trusted-key key-number 例 : Device (config) # ntp trusted-key 1	NTP クライアントで同期をとれるようにするために、NTP サーバによってその NTP パケットで提供される必要がある 1 つ以上のキーを指定します。trusted key の範囲は 1 ~ 65535 です。このコマンドにより、NTP クライアントが、信頼されていない NTP サーバと誤って

	コマンドまたはアクション	目的
		同期する、ということが防止されます。
ステップ 11	ntp server vrf vrf-name 例： Device(config)# ntp server vrf A 1.1.1.2 key 1	指定された VRF で NTP サーバを設定します。

NTP サーバでの NTP 用 VRF 認識サービスの設定

NTP サーバで次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	ntp authentication-key number md5 password 例： Device(config)# ntp authentication-key 1 md5 cisco123	認証キーを定義します。デバイスが時刻源と同期するのは、時刻源がこれらの認証キーのいずれかを持ち、 ntp trusted-key number コマンドによってキー番号が指定されている場合だけです。 (注) 認証キー番号と MD5 パスワードは、クライアントとサーバの両方で同じである必要があります。
ステップ 4	ntp authenticate 例： Device(config)# ntp authenticate	NTP 認証機能をイネーブルにします。NTP 認証はデフォルトでディセーブルになっています。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	ntp trusted-key <i>key-number</i> 例： Device(config)# ntp trusted-key 1	NTP クライアントで同期をとれるようにするために、NTP サーバによってその NTP パケットで提供される必要がある 1 つ以上のキーを指定します。trusted key の範囲は 1 ～ 65535 です。このコマンドにより、NTP クライアントが、信頼されていない NTP サーバと誤って同期する、ということが防止されます。
ステップ 6	interface <i>interface-id</i> 例： Device(config)# interface gigabitethernet 1/0/3	VRF に関連付けるレイヤ 3 インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	vrf forwarding <i>vrf-name</i> 例： Device(config-if)# vrf forwarding A	VRF をレイヤ 3 インターフェイスに対応付けます。
ステップ 8	ip address <i>ip-address subnet-mask</i> 例： Device(config-if)# ip address 1.1.1.2 255.255.255.0	インターフェイスの IP アドレスを入力します。
ステップ 9	exit 例： Device(config-if) exit	インターフェイスコンフィギュレーション モードを終了します。

uRPF 用 VRF 認識サービスの設定

uRPF は、VRF に割り当てられたインターフェイス上で設定でき、送信元検索が VRF テーブルで実行されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例：	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
	<code>Device#configure terminal</code>	
ステップ 3	interface interface-id 例： <code>Device(config)#interface gigabitethernet 1/0/1</code>	インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始し、設定するレイヤ 3 インターフェイスを指定します。
ステップ 4	no switchport 例： <code>Device(config-if)#no switchport</code>	レイヤ 2 コンフィギュレーションモードからインターフェイスを削除します（物理インターフェイスの場合）。
ステップ 5	ip vrf forwarding vrf-name 例： <code>Device(config-if)#ip vrf forwarding vpn2</code>	インターフェイス上で VRF を設定します。
ステップ 6	ip address ip-address 例： <code>Device(config-if)#ip address 10.1.5.1</code>	インターフェイスの IP アドレスを入力します。
ステップ 7	ip verify unicast reverse-path 例： <code>Device(config-if)#ip verify unicast reverse-path</code>	インターフェイス上で uRPF をイネーブルにします。
ステップ 8	end 例： <code>Device(config-if)#end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。

VRF 認識 RADIUS の設定

VRF 認識 RADIUS を設定するには、まず RADIUS サーバ上で AAA をイネーブルにする必要があります。『Per VRF AAA Feature Guide』で説明されているとおり、スイッチで **ip vrf forwarding vrf-name** サーバグループ コンフィギュレーションコマンドと **ip radius source-interface** グローバル コンフィギュレーションコマンドがサポートされます。

syslog 用 VRF 認識サービスの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	logging on 例： Device(config)# logging on	ストレージルータ イベントメッセージのロギングを、イネーブルまたは一時的にディセーブルにします。
ステップ 4	logging host ip-address vrf vrf-name 例： Device(config)# logging host 10.10.1.0 vrf vpn1	ロギングメッセージが送信される Syslog サーバのホストアドレスを指定します。
ステップ 5	logging buffered logging buffered size debugging 例： Device(config)# logging buffered critical 6000 debugging	メッセージを内部バッファにロギングします。
ステップ 6	logging trap debugging 例： Device(config)# logging trap debugging	Syslog サーバに送信されるロギングメッセージを制限します。
ステップ 7	logging facility facility 例： Device(config)# logging facility user	ロギング ファシリティにシステム ロギングメッセージを送信します。
ステップ 8	end 例：	特権 EXEC モードに戻ります。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device (config-if) #end	

tracertool 用 VRF 認識サービスの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	tracertool vrf vrf-name ipaddress 例 : Device (config) #tracertool vrf vpn2 10.10.1.1	宛先アドレスを取得する VPN VRF の名前を指定します。

FTP および TFTP 用 VRF 認識サービスの設定

FTP および TFTP を VRF 認識とするには、いくつかの FTP/TFTP CLI を設定する必要があります。たとえば、インターフェイスに付加される VRF テーブルを使用する場合、E1/0 であれば、`ip tftp source-interface E1/0` コマンドまたは `ip ftp source-interface E1/0` コマンドを設定して、特定のルーティング テーブルを使用するように TFTP または FTP サーバに通知する必要があります。この例では、VRF テーブルが宛先 IP アドレスを検索するのに使用されます。これらの変更には下位互換性があり、既存の動作には影響を及ぼしません。つまり、VRF がそのインターフェイスに設定されていない場合でも、送信元インターフェイス CLI を使用して、特定のインターフェイスにパケットを送信できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例 : Device>enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例 : Device#configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

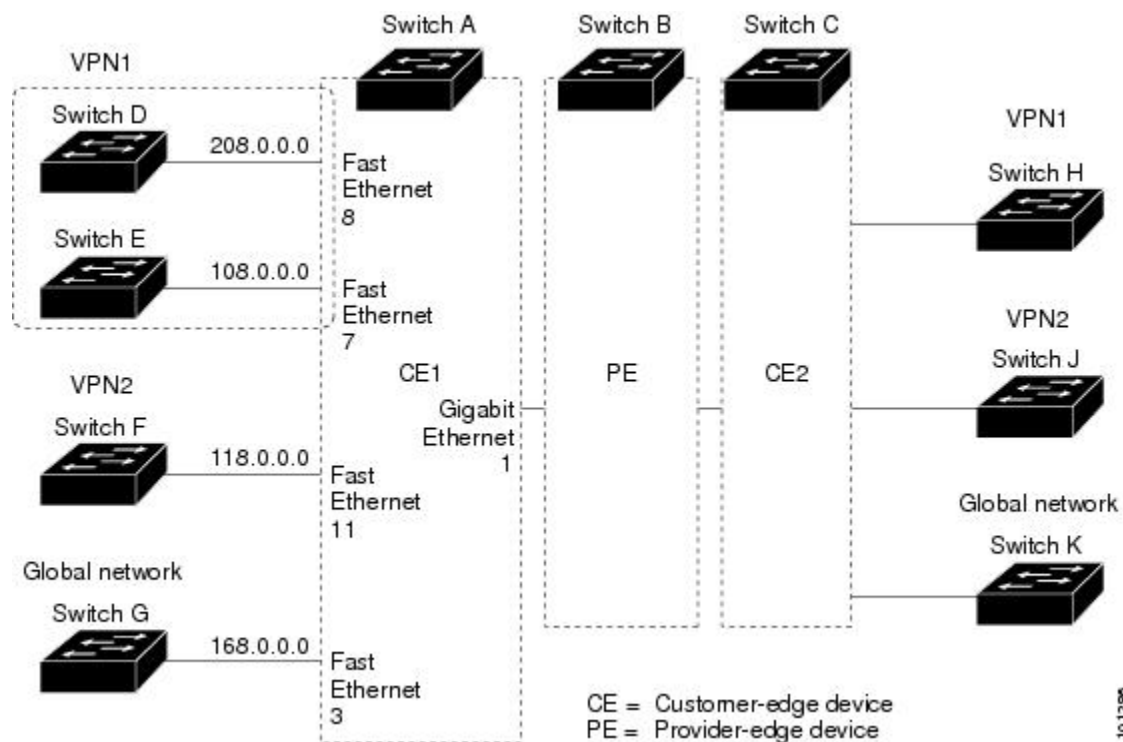
	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	ip ftp source-interface <i>interface-type</i> <i>interface-number</i> 例 : Device(config)#ip ftp source-interface gigabitethernet 1/0/2	FTP 接続の発信元 IP アドレスを指定します。
ステップ 4	end 例 : Device(config)#end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	configure terminal 例 : Device#configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	ip tftp source-interface <i>interface-type</i> <i>interface-number</i> 例 : Device(config)#ip tftp source-interface gigabitethernet 1/0/2	TFTP 接続用の送信元 IP アドレスを指定します。
ステップ 7	end 例 : Device(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

Multi-VRF CE の設定例

Multi-VRF CE の設定例

VPN1、VPN2、およびグローバル ネットワークで使用されるプロトコルは OSPF です。CE/PE 接続には BGP が使用されます。図のあとに続く出力は、スイッチを CE スイッチ A として設定する例、およびカスタマー スイッチ D と F の VRF 設定を示しています。CE スイッチ C とその他のカスタマー スイッチを設定するコマンドは含まれていませんが、内容は同様です。

図 2: Multi-VRF CE の設定例



スイッチ A では、ルーティングをイネーブルにして VRF を設定します。

```
Device#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)#ip routing
Device(config)#ip vrf v11
Device(config-vrf)#rd 800:1
Device(config-vrf)#route-target export 800:1
Device(config-vrf)#route-target import 800:1
Device(config-vrf)#exit
Device(config)#ip vrf v12
Device(config-vrf)#rd 800:2
Device(config-vrf)#route-target export 800:2
Device(config-vrf)#route-target import 800:2
Device(config-vrf)#exit
```

スイッチ A のループバックおよび物理インターフェイスを設定します。ギガビットイーサネットポート 1 は PE へのトランク接続です。ギガビットイーサネットポート 8 と 11 は VPN に接続されます。

```
Device(config)#interface loopback1
Device(config-if)#ip vrf forwarding v11
Device(config-if)#ip address 8.8.1.8 255.255.255.0
Device(config-if)#exit

Device(config)#interface loopback2
Device(config-if)#ip vrf forwarding v12
Device(config-if)#ip address 8.8.2.8 255.255.255.0
Device(config-if)#exit
```

```

Device(config)#interface gigabitethernet1/0/5
Device(config-if)#switchport trunk encapsulation dot1q
Device(config-if)#switchport mode trunk
Device(config-if)#no ip address
Device(config-if)#exit
Device(config)#interface gigabitethernet1/0/8
Device(config-if)#switchport access vlan 208
Device(config-if)#no ip address
Device(config-if)#exit
Device(config)#interface gigabitethernet1/0/11
Device(config-if)#switchport trunk encapsulation dot1q
Device(config-if)#switchport mode trunk
Device(config-if)#no ip address
Device(config-if)#exit

```

スイッチ A で使用する VLAN を設定します。VLAN 10 は、CE と PE 間の VRF 11 によって使用されます。VLAN 20 は、CE と PE 間の VRF 12 によって使用されます。VLAN 118 と 208 は、それぞれスイッチ F とスイッチ D を含む VPN に使用されます。

```

Device(config)#interface vlan10
Device(config-if)#ip vrf forwarding v11
Device(config-if)#ip address 38.0.0.8 255.255.255.0
Device(config-if)#exit
Device(config)#interface vlan20
Device(config-if)#ip vrf forwarding v12
Device(config-if)#ip address 83.0.0.8 255.255.255.0
Device(config-if)#exit
Device(config)#interface vlan118
Device(config-if)#ip vrf forwarding v12
Device(config-if)#ip address 118.0.0.8 255.255.255.0
Device(config-if)#exit
Device(config)#interface vlan208
Device(config-if)#ip vrf forwarding v11
Device(config-if)#ip address 208.0.0.8 255.255.255.0
Device(config-if)#exit

```

VPN1 と VPN2 で OSPF ルーティングを設定します。

```

Device(config)#router ospf 1 vrf v11
Device(config-router)#redistribute bgp 800 subnets
Device(config-router)#network 208.0.0.0 0.0.0.255 area 0
Device(config-router)#exit
Device(config)#router ospf 2 vrf v12
Device(config-router)#redistribute bgp 800 subnets
Device(config-router)#network 118.0.0.0 0.0.0.255 area 0
Device(config-router)#exit

```

CE/PE ルーティングに BGP を設定します。

```

Device(config)#router bgp 800
Device(config-router)#address-family ipv4 vrf v12
Device(config-router-af)#redistribute ospf 2 match internal
Device(config-router-af)#neighbor 83.0.0.3 remote-as 100
Device(config-router-af)#neighbor 83.0.0.3 activate
Device(config-router-af)#network 8.8.2.0 mask 255.255.255.0
Device(config-router-af)#exit
Device(config-router)#address-family ipv4 vrf v11
Device(config-router-af)#redistribute ospf 1 match internal
Device(config-router-af)#neighbor 38.0.0.3 remote-as 100
Device(config-router-af)#neighbor 38.0.0.3 activate

```

```
Device(config-router-af)#network 8.8.1.0 mask 255.255.255.0
Device(config-router-af)#end
```

スイッチ D は VPN 1 に属します。次のコマンドを使用して、スイッチ A への接続を設定します。

```
Device#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)#ip routing
Device(config)#interface gigabitethernet1/0/2
Device(config-if)#no switchport
Device(config-if)#ip address 208.0.0.20 255.255.255.0
Device(config-if)#exit
```

```
Device(config)#router ospf 101
Device(config-router)#network 208.0.0.0 0.0.0.255 area 0
Device(config-router)#end
```

スイッチ F は VPN 2 に属します。次のコマンドを使用して、スイッチ A への接続を設定します。

```
Device#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)#ip routing
Device(config)#interface gigabitethernet1/0/1
Device(config-if)#switchport trunk encapsulation dot1q
Device(config-if)#switchport mode trunk
Device(config-if)#no ip address
Device(config-if)#exit
```

```
Device(config)#interface vlan118
Device(config-if)#ip address 118.0.0.11 255.255.255.0
Device(config-if)#exit
```

```
Device(config)#router ospf 101
Device(config-router)#network 118.0.0.0 0.0.0.255 area 0
Device(config-router)#end
```

このコマンドをスイッチ B (PE ルータ) で使用すると、CE デバイス、スイッチ A に対する接続だけが設定されます。

```
Device#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)#ip vrf v1
Device(config-vrf)#rd 100:1
Device(config-vrf)#route-target export 100:1
Device(config-vrf)#route-target import 100:1
Device(config-vrf)#exit
```

```
Device(config)#ip vrf v2
Device(config-vrf)#rd 100:2
Device(config-vrf)#route-target export 100:2
Device(config-vrf)#route-target import 100:2
Device(config-vrf)#exit
Device(config)#ip cef
Device(config)#interface Loopback1
Device(config-if)#ip vrf forwarding v1
Device(config-if)#ip address 3.3.1.3 255.255.255.0
Device(config-if)#exit
```

```
Device(config)#interface Loopback2
```

```
Device(config-if)#ip vrf forwarding v2
Device(config-if)#ip address 3.3.2.3 255.255.255.0
Device(config-if)#exit

Device(config)#interface gigabitethernet1/1/0.10
Device(config-if)#encapsulation dot1q 10
Device(config-if)#ip vrf forwarding v1
Device(config-if)#ip address 38.0.0.3 255.255.255.0
Device(config-if)#exit

Device(config)#interface gigabitethernet1/1/0.20
Device(config-if)#encapsulation dot1q 20
Device(config-if)#ip vrf forwarding v2
Device(config-if)#ip address 83.0.0.3 255.255.255.0
Device(config-if)#exit

Device(config)#router bgp 100
Device(config-router)#address-family ipv4 vrf v2
Device(config-router-af)#neighbor 83.0.0.8 remote-as 800
Device(config-router-af)#neighbor 83.0.0.8 activate
Device(config-router-af)#network 3.3.2.0 mask 255.255.255.0
Device(config-router-af)#exit
Device(config-router)#address-family ipv4 vrf v1
Device(config-router-af)#neighbor 38.0.0.8 remote-as 800
Device(config-router-af)#neighbor 38.0.0.8 activate
Device(config-router-af)#network 3.3.1.0 mask 255.255.255.0
Device(config-router-af)#end
```

マルチ VRF CE の機能情報

表 3: マルチ VRF CE の機能情報

機能名	リリース	機能情報
マルチ VRF CE	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	この機能が導入されました

